

# 日本地質学会第121年学術大会（2014 鹿児島大会）講演プログラム（口頭）

■9月15日（月）午前

会場	第1会場（111）	第2会場（121）	第3会場（131）
	<b>S1. 九州が大陸だった頃の生物と環境（一般公開シンポジウム）</b> 座長：三枝春生（1-4）、平山 廉（5-8）、仲谷英夫（総合討 論）	<b>R10. 炭酸塩岩の起源と地球環境</b> 座長：加藤大和（1-3）、足立奈津子（4-7）、高嶋千鶴（8-10）	<b>T5. ポスト冥王代研究</b> 座長：磯崎行雄（1, 4-6）、堤 之恭（2-3）
9:00	9:00 はじめに、このシンポジウムについて。仲谷英夫 9:10 <b>S1-O-1（招待）</b> 鹿児島県下甕島上部白亜系産出の恐竜化石。 <b>對比地孝亘</b> ・小松 俊文 9:35 <b>S1-O-2</b> 御船層群上部層の陸生脊椎動物化石。 <b>池上直樹</b> 9:45 <b>S1-O-3</b> 九州の白亜紀から新第三紀初頭のカメラ類化石。 <b>平山 廉</b> 10:10 <b>S1-O-4</b> 九州の古第三紀大型陸生哺乳類化石。 <b>宮田和周</b> 10:35 <b>S1-O-5</b> 九州およびその周辺地域の新第三紀の長鼻類およびその他哺乳 類。 <b>三枝春生</b> 11:00 休憩 11:05 <b>S1-O-6</b> 大型植物化石からみた始新世-漸新世の陸上植生と気候。 <b>矢部 淳</b> 11:30 <b>S1-O-7（招待）</b> 中生代の花粉化石からみた日本の植生と古環境。 <b>ルグラン ジュリアン</b> ・矢部 淳・宮田和周・西田治文 11:50 <b>S1-O-8</b> 九州の地質構造発達史。特に白亜紀～古第三紀の付加体と正常 堆積物の時代と分布に注目して。 <b>斎藤 真</b> 12:15 総合討論	9:00 <b>R10-O-1</b> 北中国山東省でのカンブリア紀生物礁の特徴と変遷様式。 <b>足立 奈津子</b> ・江崎洋一・劉 建波 9:15 <b>R10-O-2</b> 北中国地塊と南中国地塊上のカンブリア系から下部オルドビス 系の礁形成に果たした海綿の重要性—隠れた立役者の存在—。 <b>江崎洋一</b> ・足立奈津子・劉 建波 9:30 <b>R10-O-3★</b> 秋吉産大理石石材にみられる中期ペルム紀の海綿—被覆性微生 物群集。 <b>中澤 努</b> ・井川敏恵・藤川将之・上野勝美 9:45 <b>R10-O-4★</b> 離水サンゴ礁に残された化石サンゴ記録を用いた北西太平洋に おけるサンゴ礁生態系のベースライン復元。 <b>本郷宙軌</b> ・Shen Chuan-Chou 10:00 <b>R10-O-5</b> 新潟県上越市の上部中新統能生谷層よりメタン湧水起源アラゴ ナイトコンクリーションの発見とその意義。 <b>宮嶋佑典</b> ・渡邊裕 美子・柳沢幸夫・小池伯一・松岡廣繁・天野和孝 10:15 <b>R10-O-6</b> 炭酸塩鉱物の選択的溶解法とその石灰岩への適用。 <b>外山浩太 郎</b> ・寺門靖高 10:30 <b>R10-O-7（招待）★</b> カルストにおける化学的過程と鍾乳石に保存される古環境情 報。 <b>吉村和久</b> 11:00 <b>R10-O-8</b> 異なる地表植生下における鍾乳石成長過程と地下水浸透メカニ ズムの相違—沖縄県南大東島を例として—。 <b>松田博貴</b> ・鹿島美 香・佐藤祐也・吉村和久・嶋田 純 11:15 <b>R10-O-9</b> 岩手県内間木洞の石筍酸素同位体記録が示す降水量変動の周期 性。 <b>加藤大和</b> ・山田 努・松田博貴・栗崎弘輔・吉村和久 11:30 <b>R10-O-10</b> 鍾乳石に津波記録は残るか？ <b>山田 努</b> ・加藤大和	9:45 <b>T5-O-1</b> ポスト冥王代研究。 <b>磯崎行雄</b> ・堤 之恭 10:00 <b>T5-O-2（招待）</b> 冥王代原初大陸の探索方法。 <b>丸山茂徳</b> ・沢田 輝・磯崎行雄 10:30 <b>T5-O-3</b> 碎屑性ジルコン研究の新しい展開：地球表層～地殻・マントル ～コアまで。 <b>山本伸次</b> ・小宮 剛・佐藤雅彦・坂田周平・服部 健太郎・平田岳史 10:45 <b>T5-O-4</b> 碎屑性ジルコンから探る過去の大陸地殻年代頻度分布。 <b>沢田 輝</b> ・丸山茂徳・平田岳史・坂田周平 11:00 <b>T5-O-5（招待）</b> 第一原理計算からの地球惑星科学。 <b>土屋卓久</b> 11:30 <b>T5-O-6</b> 第2大陸の役割。 <b>河合研志</b> ・山本伸次・土屋卓久・市川浩樹・ 丸山茂徳

※講演番号は、シンポジウム（S）、トピックセッション（T）、レギュラーセッション（R）のそれぞれに、ポスター（P）/口頭（O）の記号と各セッション内での通し番号を付与しています。

※講演要旨とプログラムとで発表題目や著者氏名が異なっている場合、講演要旨を正しいものとします。

※太字氏名：代表発表者。 ★印：ハイライト（本誌 p.(11) を参照）。（招待）：招待講演。（招待：国際）：学術交流協定を締結している海外関係学協会からの招待講演。

日本地質学会第121年学術大会（2014 鹿児島大会）講演プログラム（口頭）

■9月15日（月）午前

会場	第4会場（122）	第5会場（124）	第6会場（125）
	<b>R20. 応用地質学一般およびノンテクトニック構造</b>	<b>R22. 第四紀地質</b>	<b>T2. 文化地質学</b>
	座長：常盤哲也（1-4）、西山賢一（5-8）	座長：内山 高（1-3）、瀬戸浩二（4-7）	座長：一田昌宏（1-5）、鈴木寿志（6-9）
9：00	<p>9：15 R20-O-1（招待）★ 九州における土砂災害と防災研究。地頭蘭 隆</p> <p>9：45 R20-O-2 阿蘇カルデラ斜面における土石流の発生頻度。西山賢一・鳥井真之・星出和裕・若月 強・横田修一郎・井上 弦・中尾賢一</p> <p>10：00 R20-O-3 ホンジュラス国首都圏テグシガルパの地すべり特性と対策。廣田清治</p> <p>10：15 R20-O-4 群馬県北西部八ッ場ダム建設のJR線付け替え工事に伴い発生した陥没群—原因を地質学的に検討する—。中村庄八・竹本弘幸</p> <p>10：30 R20-O-5★ 松本盆地中部の伏在断層—微動アレー探査（空間自己相関法）による地下イメージング事例—。原山 智・信州大学震動調査グループ</p> <p>10：45 R20-O-6 津波石の磁気から津波発生の時期を読み解く。中村教博・佐藤哲郎</p> <p>11：00 R20-O-7 掘削工法の違いが岩盤に与える影響；幌延深地層研究センターの例。常盤哲也</p> <p>11：15 R20-O-8（招待）★ 地層処分の社会的受容の要因は何か？：社会心理学的視点から。大澤英昭</p>	<p>9：45 R22-O-1（招待：国際） Paleoenvironmental changes of last 10,000 years from Nakdong River Estuary sediments, Korea. CHEONG Daekyo・PAIK Seik・SHIN Seungwon・PARK Yonghee</p> <p>10：00 R22-O-2 松江平野の古環境（1）。渡辺正巳・瀬戸浩二</p> <p>10：15 R22-O-3 松江平野の古環境（2）。瀬戸浩二・渡辺正巳・山田和芳・高安克己</p> <p>10：30 R22-O-4 熊本県人吉盆地に分布する火山灰土壌が有する重金属吸着能の評価（その2）。手島洋紀・橋本典子・香村一夫・栗原正憲</p> <p>10：45 R22-O-5 2013年富士五湖河口湖の湖水位の異常低下について—地下水位観測と水理地質から見た変動—。内山 高・山本真也・笠井明穂</p> <p>11：00 R22-O-6★ 有機質膜をもつ微生物遺骸（渦鞭毛藻シスト）を利用したイベント堆積物の起源推定。林 圭一・加瀬善洋・仁科健二・川上源太郎・興水健一・高清水康博・渡邊達也・高橋 良・廣瀬亘・大津 直・石丸 聡・深見浩司・田近 淳</p> <p>11：15 R22-O-7 北海道に分布する赤色土—更新世における生成北限に関して—。仲川隆夫</p>	<p>9：00 T2-O-1 文化地質学。鈴木寿志</p> <p>9：15 T2-O-2（招待） 人・社会の営みと花崗岩。長 秋雄</p> <p>9：45 T2-O-3 鬼ノ城の石材利用。能美洋介・亀田修一</p> <p>10：00 T2-O-4★ 瀬戸内海沿岸の花崗岩石材産地における多様な歴史と現状。乾 睦子</p> <p>10：15 T2-O-5 六甲花崗岩と玄武洞玄武岩における石材の利用と災害文化。先山 徹・松原典孝</p> <p>10：30 T2-O-6 人の営みから身近な自然景観を俯瞰する：丹沢・秦野の戸川砥を例として。田口公則・門田真人</p> <p>10：45 T2-O-7★ 石灰岩石細工と江戸～明治期の本邦産紡錘虫類記載。一田昌宏</p> <p>11：00 T2-O-8（招待） 地質学の目で見た京文化。原田憲一</p> <p>11：30 T2-O-9★ 西アジアの地質・自然環境と人類史。安間 了</p>

※講演番号は、シンポジウム（S）、トピックセッション（T）、レギュラーセッション（R）のそれぞれに、ポスター（P）/口頭（O）の記号と各セッション内での通し番号を付与しています。

※講演要旨とプログラムとで発表題目や著者氏名が異なっている場合、講演要旨を正しいものとします。

※太字氏名：代表発表者。★印：ハイライト（本誌 p.(11) を参照）。（招待）：招待講演。（招待：国際）：学術交流協定を締結している海外関係学協会からの招待講演。

日本地質学会第121年学術大会 (2014 鹿児島大会) 講演プログラム (口頭)

■ 9月15日 (月) 午前

会場	第7会場 (212) (213)
	<b>R23. 地球史</b>
	座長：黒田潤一郎 (1-5), 須藤 斎 (6-10)
8:45	
9:00	R23-O-1
	鹿児島県上甕島池の嫌氣的堆積物の地球化学：リンと鉄の存在形態別分析から探る初期続成作用。 <b>飯田 始</b> ・山口耕生・小栗一将
9:15	R23-O-2
	エーヤワディー・メコン川の炭酸系について：ヒマラヤ水系の河川が炭素循環に与える影響の考察。大谷壮矢・真中卓也・石輪健樹・鈴木 淳・Raywadee Roachanakanan・川幡穂高
9:30	R23-O-3★
	海底堆積物を用いたアデン湾周辺域の古環境復元。 <b>伊左治雄太</b> ・川幡穂高・大河内直彦・村山雅史・玉木賢策・
9:45	R23-O-4
	南大洋インド洋区における極前線および季節海水域の変動。 <b>池原 実</b> ・山根雅子・横山祐典
10:00	R23-O-5
	ルミネッセンス年代によるデルタ海岸線数十年変動の復元。 <b>田村 亨</b>
10:15	R23-O-6
	地中海流出水の変化に伴う、イベリア半島周辺の後期中新世～更新世の海洋表層環境の変動。 <b>風呂田郷史</b> ・沢田 健
10:30	R23-O-7
	蒸発岩の堆積学と中新世メッシニアン期塩分危機。 <b>黒田潤一郎</b> ・吉村寿紘・川幡穂高・ヒメネス-エスベホフランシスコ
10:45	R23-O-8 (招待)
	堆積残留磁化獲得メカニズムと地球磁場極性逆転年代の高精度決定。 <b>菅沼悠介</b>
11:15	R23-O-9
	珪藻化石群集を用いた北東部北太平洋アラスカ湾周辺域 (ODP Site 887 およびIODP Site U1417) における新第三紀古海洋変動の復元。 <b>福村朱美</b> ・須藤 斎・今野 進・OscarRomero・沢田 健・IODP Exp. 341Scientists
11:30	R23-O-10
	太古代の海洋底の変質作用：珪化作用と熱水変成作用。 <b>小宮 剛</b>

会場	第8会場 (211)
	<b>R15. テクトニクス</b>
	座長：武藤 潤 (1-4), 石川正弘 (5-7), 石山達也 (8-10)
8:45	R15-O-1 (招待：国際)
	Surface ruptures and earthquake hazards. <b>KIM Young-Seog</b> ・CHOI Jin-Hyuck
9:00	R15-O-2 (招待：国際)
	The biggest earthquake of the century in Thailand. <b>WIWEGWIN Weerachat</b> ・KOSUWAN Suwith・NUCHANONG Tawsaporn
9:15	R15-O-3 (招待)★
	中期中新世海溝三重会合点の急移動と西南日本列島地殻の急成長。 <b>木村 学</b> ・橋本善孝・北村有迅・山口飛鳥・高下裕章
9:45	R15-O-4 (招待)★
	九州内陸における地殻活動・構造特性。 <b>松本 聡</b>
10:15	R15-O-5
	二船式反射法地震探査からみた能登半島西方沖から金沢沖にかけてのアクティブテクトニクス。 <b>加藤直子</b> ・佐藤比呂志・石山達也・阿部 進・白石和也
10:30	R15-O-6
	富山トラフ周辺地域の浅部～深部地殻構造と活構造。 <b>石山達也</b> ・佐藤比呂志・加藤直子・阿部 進・白石和也・東中基倫・越谷 信・小林健太・武田哲也・松原 誠・戸田 茂
10:45	R15-O-7
	北部フォッサマグナおよび北陸沖の地殻構造：北米プレート境界は存在するか？ <b>佐藤比呂志</b> ・石山達也・加藤直子・稲葉 充
11:00	R15-O-8
	2008SCAT高分解能反射法地震探査によって明らかとなった伊那谷断層帯の地下構造。 <b>伊藤谷生</b> ・狩野謙一・松島信幸・村松 武・阿部 進・藤原 明・菊池伸輔・村田和則・池田安隆・山北 聡・工藤 健・佐藤比呂志・金田平太郎・宮内崇裕・阿部信太郎
11:15	R15-O-9★
	関東地震震源断層直下のスラブ構成岩石：伊豆衝突帯の例。 <b>石川正弘</b> ・坪川祐美子・本多聡子
11:30	R15-O-10
	弾性波速度測定による地殻構成岩石の推定一日高変成帯を例にして。 <b>山内紘一</b> ・石川正弘・豊島剛志・佐藤比呂志

■ MEMO ■

※講演番号は、シンポジウム (S)、トピックセッション (T)、レギュラーセッション (R) のそれぞれに、ポスター (P) / 口頭 (O) の記号と各セッション内での通し番号を付与しています。  
 ※講演要旨とプログラムとで発表題目や著者氏名が異なっている場合、講演要旨を正しいものとします。  
 ※太字氏名：代表発表者。 ★印：ハイライト (本誌 p.(11) を参照)。(招待)：招待講演。(招待：国際)：学術交流協定を締結している海外関係学協会からの招待講演。

日本地質学会第121年学術大会（2014鹿児島大会）講演プログラム（口頭）

■9月15日（月）午後

会場	第1会場（111）	第2会場（121）	第3会場（131）
	<b>R1. 深成岩・火山岩とマグマプロセス</b>	<b>R11. 堆積相・堆積過程</b>	<b>T4. 碎屑性ジルコン年代学：その未来とさらなる応用</b>
	座長：亀井淳志（1-4）、柚原雅樹（5-8）、竹原真美（9-10）	座長：清水水康博（1-5）、西田尚央（6-10）、横川美和（11-14）	座長：磯崎行雄（1-3）、山本伸次（4-7）
14：30	14：30 R1-O-1 日高変成帯，37Maの火成岩類の特徴。小島 萌・大橋美由希・志村俊昭	14：30 R11-O-1 南相馬市の3.11津波堆積物についての層相区分による形成過程の検討。太田勝一・保柳康一	14：30 T4-O-1 西オーストラリア・ジャックヒルズ変成岩に含まれる碎屑性・衝撃変成ジルコンの組織学的・年代学的検討。山本伸次・小宮 剛・坂田周平・服部健太郎・平田岳史
	14：45 R1-O-2 南部北上山地から見いだされたカンブリア紀花崗岩類の年代学のおよび岩石学的特徴。土谷信高・柳澤嵩志・佐々木惇・足立達朗・中野伸彦・小山内康人	14：45 R11-O-2★ 広田湾における津波起源堆積物の細区分。横山由香・坂本 泉・八木雅俊・飯島さつき・根元謙次・藤巻三樹雄・藤原義弘・笠谷貴史	14：45 T4-O-2（招待） ウェールズ北西部に露出する付加体の堆積年代の制約とその後背地推定。澤木佑介・浅沼 尚・鈴木和恵・岡田吉弘・丸山茂徳
	15：00 R1-O-3 羽越地域北部における後期白亜紀火成活動。加藤涼介・加々島慎一・中野信彦・小山内康人	15：00 R11-O-3 鳥取県西部弓ヶ浜半島で見つかった津波由来の可能性のある堆積物とその意義。酒井哲弥・瀬戸浩二・安本善征・林 照悟・田代誠士	15：00 T4-O-3 イギリス・ウェールズ北西部を形成した太平洋型造山運動の実証に向けて。浅沼 尚・岡田吉弘・澤木佑介・山本伸次・平田岳史・丸山茂徳
	15：15 R1-O-4 福島県南西部只見川古期花崗岩類のU-PbおよびK-Ar年代。若杉勇輝・谷岡裕大・壺井基裕・浅原良浩	15：15 R11-O-4 乱流運動エネルギー保存と干渉沈降を考慮した浮遊砂輸送キャパシティ。成瀬 元・菅原大助・後藤和久	15：15 T4-O-4 Provenance history of Baltica. Yukio ISOZAKI, Hiroki NAKAHATA, Anne POLDVERE, Heikki BAUERT, Shuhei SAKATA, Takafumi HIRATA
	15：30 R1-O-5 ジルコンのU-Pb年代および微量元素組成からみたマグマ溜りの進化過程：石鎚コールドロンを例に。竹原真美・堀江憲路・谷健一郎・吉田武義・外田智千・清川昌一	15：30 R11-O-5 水槽実験による海底チャネル発達条件の検討。佐藤巨孝・成瀬 元	15：30 T4-O-5 ジルコンのダブル（U-Pb, FT）年代測定による大陸衝突型造山帯ヒマラヤの解剖。酒井治孝・河上哲生・佐藤活志・平田岳史・小林 航・岩野英樹・檀原 徹
	15：45 R1-O-6 東南極，プリンス・オラフ海岸，日の出岬の藍晶石を含むトーナライト：特に石灰珪質岩塊中の脈について。孫 羽・廣井美邦・大和田正明	15：45 R11-O-6 スランプ様堆積物の分類について（予報）。徳橋秀一	15：45 T4-O-6 前弧域の造構プロセスの復元：関東山地三峰地域のジュラ紀-白亜紀付加コンプレックスのジルコンU-Pb年代。青木一勝・佐藤友彦・山本伸次・坂田周平・平田岳史
	16：00 R1-O-7 白亜紀火成活動の起源マントル，北部九州と領家帯西部。大和田正明・浦島遼平・亀井淳志・小山内康人・中野伸彦・足立達朗	16：00 R11-O-7 混濁流によるサイクリックステップの形態：カナダ・ブリティッシュコロンビア州のスコームッシュ・デルタの例。横川美和・山本真也・Hughes Clarke John E.・泉 典洋	16：00 T4-O-7 U-Pb and Fission track zircon ages from the Kamukotan metamorphic rocks in Asahikawa district, northern Japan: toward the reconstruction of tectonics. Okamoto S. Ayumi・Takeshita Toru・Iwano Hideki・Danbara Tohru・Nishido Hirotsugu・Yi Keewook・Hirata Takafumi・Sakata Shuhei
	16：15 R1-O-8 北海道日高山脈，曲り沢かんらん岩体に見られる珪長質メルト/かんらん岩相互作用：予察的検討。山下康平・前田仁一郎	16：15 R11-O-8 粒度組成とC14年代によるカディス湾の完新世コンターライトの特徴。清水水康博・河村遼平・Ducassou E.・Hernández-Molina, F.J.・Stow D.A.V.・Alvarez-Zarikian C.・Exp. 339 乗船研究者	16：15 T4-O-8 地殻変動によって規制された完新世走丹バリアースピットの堆積様式。七山 太・重野聖之・渡辺和明・吉川秀樹・長谷川健・池田保夫・五十嵐八枝子・秋葉文雄・内田康人・石渡一人
	16：30 R1-O-9★ 中央海嶺斑れい岩類の全岩主要元素組成：レビュウ。前田仁一郎・山崎 徹	16：30 R11-O-9 北海道夕張地域に分布する中新統川端層の植物バイオマーカー分析による重力流堆積物の堆積システムの解明。風呂田郷史・沢田 健・川上源太郎	16：30 R11-O-10★ 九州地方天草諸島に分布する上部白亜系姫浦層群の塊状砂岩層の成因。竹本 光
	16：45 R1-O-10 超変成作用によるビジョン輝石の出現と消滅：マグマ溜まりループにおける部分溶融と同化作用。宮下純夫・足立佳子	17：00 R11-O-11 芦屋層群の野外証拠およびSHRIMP年代解析からの29Maイベントの吟味。坂井 卓・堀江憲路・竹原真美	17：00 R11-O-12 三次元サイミク地形学解析による三陸沖前弧堆積盆の始新世から中新世の堆積システムと後背テクトニクス変遷の検討：不整合イベントによる内湾デルタ～大陸河川～深海斜面への変化。高野 修・西村瑞恵
		17：15 R11-O-13 更新世におけるシーケンス境界形成時期と海水準変動幅：IODP, ニューゼaland陸棚—斜面掘削の結果。保柳康一・中村めぐみ・山田 桂・河湯俊吾・Blum Peter・Fulthorpe Craig S.	

※講演番号は、シンポジウム（S）、トピックセッション（T）、レギュラーセッション（R）のそれぞれに、ポスター（P）/口頭（O）の記号と各セッション内での通し番号を付与しています。

※講演要旨とプログラムとで発表題目や著者氏名が異なっている場合、講演要旨を正しいものとします。

※太字氏名：代表発表者。 ★印：ハイライト（本誌 p.(11) を参照）。（招待）：招待講演。（招待：国際）：学術交流協定を締結している海外関係学協会からの招待講演。



日本地質学会第 121 年学術大会 (2014 鹿児島大会) 講演プログラム (口頭)

■ 9月 15 日 (月) 午後

会場	第 4 会場 (122)	第 5 会場 (124)	第 6 会場 (125)
	<b>T3. グリーンタフ・ルネサンス</b>	<b>R22. 第四紀地質</b>	<b>R5. 地域地質・地域層序</b>
	座長：細井 淳 (1-2), 松原典孝 (3-5), 天野一男 (6-7)	座長：廣瀬孝太郎 (8-12), 公文富士夫 (13-16)	座長：内野隆之 (1-4), 菅森義晃 (5-8), 加藤 潔 (9-12)
14 : 30	14 : 30 <b>T3-O-1 (招待) ★</b> 東北日本, 男鹿半島における新生界層序の再検討と日本列島の形成過程. <b>鹿野和彦</b>	14 : 30 <b>R22-O-8</b> 秋田県, 鮮新-更新統笹岡層の古地磁気層序. <b>星 博幸・山田 桂</b>	14 : 30 <b>R5-O-1★</b> 重鉱物化学組成を用いた白亜紀凝灰岩の対比. <b>高嶋礼詩・桑原 里・折橋裕二・西 弘嗣</b>
	15 : 00 <b>T3-O-2</b> グリーンタフテクトニクスの系譜. <b>天野一男・細井 淳・松原典孝</b>	14 : 45 <b>R22-O-9</b> 房総半島上総層群下部-中部更新統境界GSSP候補地におけるM-B極性反転境界の古地磁気記録. <b>岡田 誠・丸岡 亨・羽田裕貴・菅沼悠介・風岡 修</b>	14 : 45 <b>R5-O-2</b> 北海道の石灰岩にみる中生代海山頂炭酸塩の堆積相と古生物相の変遷. <b>川村寿郎・橋本健一</b>
	15 : 15 <b>T3-O-3</b> 東北日本弧背弧側および鳥弧中軸地域における中期中新世火山活動とテクトニクス. <b>細井 淳</b>	15 : 00 <b>R22-O-10</b> 鮮新-更新統境界層準付近における東海層群と古琵琶湖層群のテフラ対比. <b>里口保文</b>	15 : 00 <b>R5-O-3</b> 日立地域の鮮新統基底礫岩の礫から産出したベルム紀腕足類とその構造地質学的意義. <b>田沢純一・菊池芳文・二階堂章信・安達修子・奥村よほ子</b>
	15 : 30 <b>T3-O-4</b> 東北日本, 羽越地域南部におけるブロック回転のタイミング. <b>星 博幸</b>	15 : 15 <b>R22-O-11</b> 上総層群国本層中の更新世前期-中期境界付近に発達するシルト岩層の層相と堆積環境 (予察). <b>風岡 修・亀山 瞬・森崎正昭・香川 淳・吉田 剛・荻津 達・西田尚央・岡田 誠・菅沼悠介・会田信行・熊井久雄・楡井 久</b>	15 : 15 <b>R5-O-4</b> 茂原地域における上総層群大田代層上部～長南層テフラの層序. <b>中里裕臣・七山 太</b>
	15 : 45 <b>T3-O-5</b> 中新世における棚倉断層の横ずれ運動と堆積盆発達史. <b>澤畑優理恵・天野一男</b>	15 : 30 <b>R22-O-12</b> 湖成および海底堆積物の有機炭素濃度を指標とした日本の第四紀中・後期の気候編年の試み. <b>公文富士夫・木越智彦</b>	15 : 15 <b>R5-O-5</b> 年代及びよるチェフキン石化学組成による火山岩・凝灰岩の対比: 能登半島と房総半島を例として. <b>堤 之恭・門馬綱一・横山一己</b>
	16 : 00 <b>T3-O-6</b> 堆積相解析に基づいた南部フォッサマグナ丹沢山地における古海洋性鳥弧の復元. <b>松原典孝</b>	15 : 45 <b>R22-O-13★</b> 第四紀における東南極氷床高度の低下と南極寒冷圏システム進化. <b>菅沼悠介・三浦英樹・Albert Zondervan・奥野淳一</b>	15 : 45 <b>R5-O-6</b> 岐阜県西部, 舟伏山東方の美濃帯中・古生界の地質. <b>佐野弘好</b>
	16 : 15 <b>T3-O-7</b> 長崎県対馬に分布する対州層群の形成年代. <b>二宮 崇・下山正一・渡邊公一郎・Dunkley J. Dunkley・堀江憲路・白石和行</b>	16 : 00 <b>R22-O-14</b> 野尻湖西岸, 大崎におけるナウマンゾウ化石包含層の発見. <b>竹下欣宏・野尻湖地質グループ</b>	16 : 00 <b>R5-O-7</b> 高根県大田市琴ヶ浜周辺の地質: 鳴り砂の後背地解明を目指して. <b>林 広樹・Roser Barry・幸村哲也・酒井哲也・三瓶良和</b>
		16 : 15 <b>R22-O-15</b> 宮城県松島湾中央部と東部で採取した2011年東北沖津波堆積物中の珪藻遺骸群集の変化. <b>吉岡 薫・入月俊明・白山正太・鈴木 淳・田中裕一郎・長尾正之・藤原 治・河湯俊吾・河野重範・西村 修・佐々木久雄</b>	16 : 15 <b>R5-O-8</b> 四国中東部, 三嶺-剣山地域の御荷鉾緑色岩類～秩父北帯の地質構造. <b>村田明広</b>
		16 : 30 <b>R22-O-16</b> 猪苗代湖ボーリングコア (INW2012) からみた 過去1700年間の珪藻群集変化. <b>廣瀬孝太郎・後藤敏一・長橋良隆</b>	16 : 30 <b>R5-O-9</b> 九州西部長崎 (野母) 半島の地質 (予報). <b>長田充弘・高地吉一・大藤 茂・宮田和周・山本鋼志</b>
			16 : 45 <b>R5-O-10</b> 北薩地方西目地域の仏像構造線. <b>勝村敏史・山本啓司</b>
			17 : 00 <b>R5-O-11</b> 北部ラオス, ウドムサイールアンナムタ地域で見出された後期ベルム紀石灰岩: 有孔虫群集と地体構造的意義. <b>上野勝美・宮東 照・鎌田祥仁・久田健一郎・原 英俊・宇野康司・Charoentitirat Thasinee・Charusiri Punya・Kongthipavong Subin・Vilaykham Khamseng</b>
			17 : 15 <b>R5-O-12</b> 北部ラオス, ウドムサイ地域に分布する中部三疊系酸性凝灰岩とその地質学的対比. <b>鎌田祥仁・上野勝美・宮東 照・久田健一郎・原 英俊・宇野康司・Thasinee Charoentitirat・Punya Charusiri・Subin Kongthipavong・Khamseng Vilaykham</b>

※講演番号は, シンポジウム (S), トピックセッション (T), レギュラーセッション (R) のそれぞれに, ポスター (P) / 口頭 (O) の記号と各セッション内での通し番号を付与しています.

※講演要旨とプログラムとで発表題目や著者氏名が異なっている場合, 講演要旨を正しいものとします.

※太字氏名: 代表発表者. ★印: ハイライト (本誌 p.(11) を参照). (招待): 招待講演. (招待: 国際): 学術交流協定を締結している海外関係学協会からの招待講演.

日本地質学会第121年学術大会（2014 鹿児島大会）講演プログラム（口頭）

■9月15日（月）午後

会場	第7会場 (212) (213)	
	R23. 地球史	
	座長：尾上哲治 (11-15), 佐藤友彦 (16-20)	
14:30	14:30	R23-O-11 北海道苦前地域に分布する蝦夷層群Cenomanian/Turonian境界堆積岩の有機地球化学分析による堆積環境・海洋生産変動の復元. <b>安藤卓人</b> ・中村英人・沢田 健・高嶋礼詩・西 弘嗣
	14:45	R23-O-12 北海道朱鞠内川セクションのCenomanian-Turonian境界イベント層準で見出された負の $\delta^{13}\text{C}$ エクスカージョンにともなう陸上植生変動. <b>中村英人</b> ・沢田 健・安藤卓人・高嶋礼詩・西 弘嗣
	15:00	R23-O-13 海洋無酸素事変1b発生時の環境変動. <b>西 弘嗣</b> ・小川草平・高嶋礼詩・桑原義博
	15:15	R23-O-14 南中国三峡地域の前期カンブリア紀の地層の窒素同位体変動. <b>土谷祐貴</b> ・田畑美幸・西澤 学・澤木祐介・佐藤友彦・小宮 剛
	15:30	R23-O-15★ 南中国雲南省リン酸塩堆積盆地における「カンブリア爆発」中心の探索. <b>佐藤友彦</b> ・磯崎行雄・張 興亮
	15:45	R23-O-16 Lomagundiイベント直後の大規模海洋ユークシニア. <b>尾崎和海</b> ・田近英一
	16:00	R23-O-17 32-31億年前の海底堆積層解析：DXCL掘削からみられる海洋環境と縞状鉄鉱層形成. <b>清川昌一</b> ・伊藤 孝・池原 実・山口耕生・尾上哲治・堀江憲路・菅沼悠介・奈良岡浩・三木 翼
	16:15	R23-O-18 初期太古代Nulliak表成岩帯中の縞状鉄鉱層の地質学、層序学、地球化学的研究. <b>青木翔吾</b> ・山本伸次・平田岳史・小宮 剛
	16:30	R23-O-19 カナダ、ラブラドル地域、初期太古代（39.6億年前以前）堆積岩中の炭質物の産状と炭素同位体：最古生命の痕跡の探索. <b>田代貴志</b> ・堀 真子・石田章純・伊規須素子・佐野有司・小宮 剛
	16:45	R23-O-20★ Re-Os同位体から探るアカスタ片麻岩体苦鉄質岩の形成年代. <b>越田溪子</b> ・石川 晃・鈴木勝彦・小宮 剛

第8会場 (211)	
R15. テクトニクス	
座長：針金由美子 (11-14), 小林健太 (15-18)	
14:30	R15-O-11 1955年に出された断層・破碎帯の識別問題—未固化期変形帯の検出—. <b>吉村辰朗</b>
14:45	R15-O-12★ 前期更新世までに活動を停止した断層における破碎帯の鉱物学的・地化学的特徴. <b>大谷具幸</b> ・河野雅弘・小嶋 智
15:00	R15-O-13 変形礫岩と石炭化度からみた更新統足柄層群の変形環境. <b>小林健太</b> ・粉川真人
15:15	R15-O-14 海溝型地震の予後：津波痕跡による変動の評価. <b>箕浦幸治</b> ・菅原大助・山野井徹・山田 努
15:30	R15-O-15 重力解析と断層露頭観察からみた別府湾堆積盆形成に関わった断層系. <b>山北 聡</b> ・工藤 健・伊藤谷生
15:45	R15-O-16 北薩地方の四万十累層群池之段層の覆瓦状構造. <b>土居真輔</b> ・山本啓司
16:00	R15-O-17 マレーシア北西ボルネオ島Fold-and-Thrust帯に見られるMass Transport Complex (MTC)とMini Basin発達史. <b>筒井宏輔</b> ・徳永裕之・遠竹行次・小林博文
16:15	R15-O-18 屈曲スラブ沈み込みと日本海拡大. <b>新妻信明</b>

■ MEMO ■

※講演番号は、シンポジウム (S)、トピックセッション (T)、レギュラーセッション (R) のそれぞれに、ポスター (P) / 口頭 (O) の記号と各セッション内での通し番号を付与しています。  
 ※講演要旨とプログラムとで発表題目や著者氏名が異なっている場合、講演要旨を正しいものとします。  
 ※太字氏名：代表発表者。 ★印：ハイライト（本誌 p.(11) を参照）。 (招待)：招待講演。 (招待：国際)：学術交流協定を締結している海外関係学協会からの招待講演。